

漁海況速報

4-No. 29

茨城県水産試験場
漁業無線局

令和4年10月 7日～10月13日

電話 (029) 273-7911

FAX (029) 270-1480

<http://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/nourinsuisan/suishi/index.html>

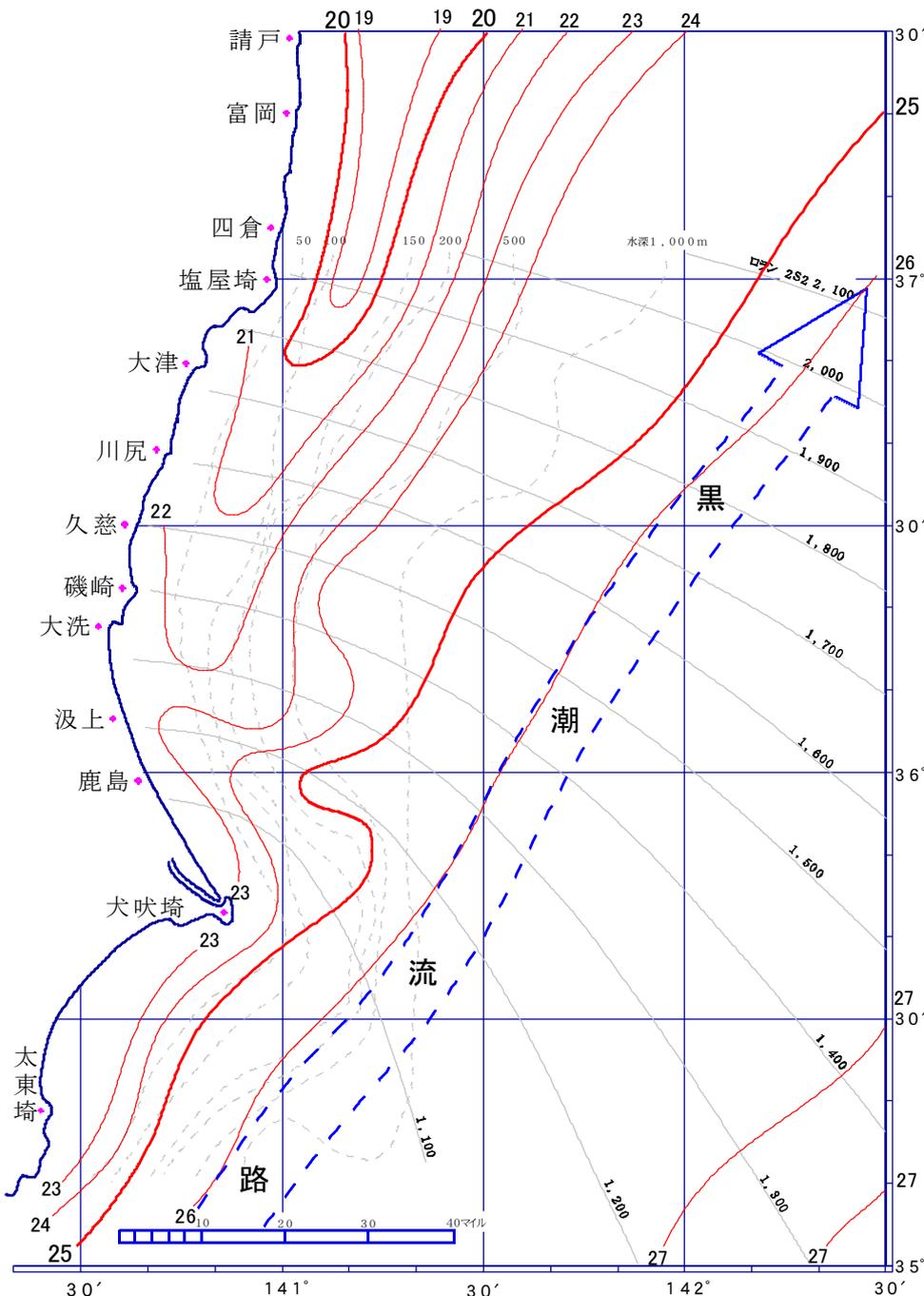
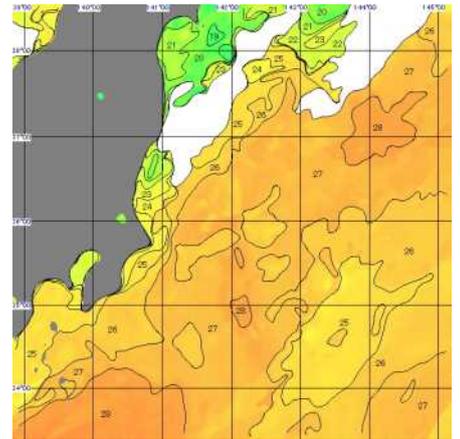
那珂湊定地水温 (°C)

日	年 令 4	令 3	平年
10/7	20.4	21.7	20.7
8	20.9	21.9	20.6
9	21.0	21.6	20.5
10	21.1	21.5	20.4
11	21.5	21.7	20.3
12	21.1	21.4	20.2
13	20.4	21.0	20.1
平均	20.9	21.5	20.4

30年平均: 1991~2020年

令和4年10月 7日～10月13日

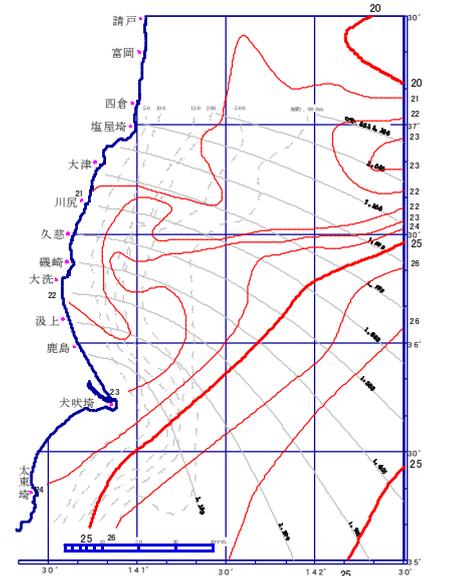
【1週間合成衛星画像】



【海況図】

【海況図説明】

1. 黒潮は、犬吠埼の南東20マイル付近を北東に流れ、
37°00' N 142°30' E付近を流去している。
2. 本県沿岸域は、20～24℃台の水温となっている。



令和 3年 10月 8日～10月14日

【海況図】

漁況の特徴

4 - No. 29

属地、単位＝四捨五入

10/6～10/12

◎ まき網

(漁獲は1投網当り)

今週は、操業船がなかった。

◎ 小型船

(漁獲は1隻当り)

◇船曳網

シラス・・・大津地先から高戸地先で9～675kg、日立地先で3～80kg、那珂湊地先で4～15kgの漁獲。

カエリ・・・大津地先から高戸地先で1～75kgの漁獲。

◇曳釣り

平潟地先から高戸地先でヒラメ4～23kg、久慈浜地先から鉾田地先でヒラメ1～10kg、マゴチ1～7kg、イナダ1～3kg、タチウオ1～2kg、カンパチ1kg前後、マダイ1kg前後の漁獲。

魚種	漁法	組合名	水揚量 kg	平均単価	水揚金額 円	延隻数
シラス	船曳網	大津	4,787	867	4,150,060	90
		久慈浜丸小	257	388	99,600	5
		久慈町	253	352	89,000	8
		那珂湊	21	838	17,600	3
カエリ	船曳網	大津	909	78	71,040	11
ヒラメ	小底5t以上 その他釣り	平潟	6	604	3,687	
		大津	25	1,784	44,600	
		那珂湊	15	3,140	47,725	
マコガレイ	小底5t以上	平潟	28	640	17,925	
		大津	3	200	660	
イシモチ	小底5t以上	平潟	582	105	61,017	
		大津	5	100	450	
		大洗町	5	1,000	5,000	
タイ類	小底5t以上 その他釣り	平潟	1,134	436	494,664	
		大津	7	919	6,340	
		久慈町	13	360	4,680	
		大津	118	805	95,235	
		那珂湊	2	1,500	2,250	
アイナメ	小底5t以上	平潟	1	120	120	
		久慈町	2	600	1,200	
アンコウ	小底5t以上	平潟	195	389	75,813	
		大津	113	482	54,411	
		久慈町	90	283	25,460	
		那珂湊	71	311	22,080	
イセエビ	固定式刺網	久慈浜丸小	221	4,000	885,600	
スルメイカ	小底5t以上	平潟	3,407	340	1,160,035	
		大津	(43)	6,247	(山売) 269,884	
		久慈町	741	454	336,560	
		那珂湊	348	588	204,485	
ヤリイカ	小底5t以上	平潟	115	96	11,090	
		大津	41	268	10,990	
		久慈町	8	286	2,290	
ミズダコ	小底5t以上	平潟	793	227	180,070	
		大津	362	455	164,664	
		久慈町	101	288	29,100	
		那珂湊	114	402	45,950	
ホウボウ	小底5t以上	平潟	216	756	163,242	
		大津	31	721	22,280	
アナゴ	小底5t以上	平潟	88	719	63,235	
		大津	67	495	33,000	
		久慈町	4	600	2,100	
		那珂湊	2	1,300	2,470	
		延縄	大洗町	8	1,685	12,640
マアジ	小底5t以上	平潟	927	71	65,848	
		大津	175	215	37,759	
		久慈町	55	199	10,940	
		那珂湊	6	254	1,420	
サバ	小底5t以上	平潟	1,540	16	25,000	
		久慈町	1	20	26	
		那珂湊	(172)	150	(山売) 25,800	
カマス	小底5t以上	平潟	31	1,269	39,341	
		大津	2	625	1,500	

注 延隻数・銘柄別隻数 大津、那珂湊の水揚の一部は水揚げ量・平均円共に「山売」を含む

茨城県水産試験場漁業無線局

底魚資源調査（夏季）を実施しました

水産試験場では、本県沖の主要な底魚類の資源動向を把握するため、平成15年から調査船いばらき丸（179t）により年2回（夏季、冬季）の着底トロール調査（オッタートロール）を実施しています。本調査では、本県沖の水深75～450mまでの海域、合計29定点において、15～30分間（速力3～4ノット）網を曳き、面積密度法により本県海域の現存量を推定しています。今回は令和4年7、8月に実施した夏季調査結果についてお知らせします。

1 主要な底魚類の推定現存量の推移

平成24年から今年度までの推定現存量の推移を下表に示しました。また、参考として、県で資源評価を行っている魚種については資源水準も記しました。なお、近年の水揚げ状況を考慮し、今回からズワイガニとベニズワイガニの代わりに、マアナゴとマトウダイを掲載しております。

漁獲対象種の増減傾向を下記の方法で判定した結果、増加傾向にあるのはアオメエソ（めひかり）とマトウダイの2種、横ばい傾向にあるのはヤナギムシガレイ、ババガレイ（なめた）、ユメカサゴ（のどぐろ）など6種、減少傾向にあるのはマコガレイ（本まこ）、アカムツ、キチジ（あかじ）など8種でした。その他、漁獲対象とはなっていないトラザメ（ねこざめ）は減少傾向、テナガダラ（とうじん）は横ばい傾向でした。

表 推定現存量の推移（夏季トロール調査）

魚種/年度	(単位:トン)												増減傾向	水準※	過去10年平均※
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4				
ヤナギムシガレイ	27	45	48	52	127	71	64	45	27	23	28	横ばい	低位	53	
ババガレイ(なめた)	91	77	71	53	96	79	70	49	25	17	52	横ばい	-	63	
アカガレイ(赤がれい)	65	4	5	5	109	29	10	1	2	1	0	減少	-	23	
マコガレイ(本まこ)	28	5	5	16	29	26	19	50	14	18	5	減少	低位	21	
マガレイ(沖まこ)	37	7	11	23	20	16	15	5	1	0	0	減少	低位	13	
ムシガレイ	20	15	17	31	135	155	92	152	115	228	143	横ばい	高位	96	
ミギガレイ(にくもち)	83	197	107	65	162	111	105	85	36	46	77	横ばい	-	100	
ヤナギダコ(水だこ)	267	313	213	250	199	217	270	111	68	77	57	減少	低位	198	
アオメエソ(めひかり)	27	409	69	48	312	193	260	57	110	160	191	増加	高位	164	
チゴダラ(どんこ)		163	173	156	387	242	151	157	130	223	80	横ばい	-	198	
マダラ	724	166	179	144	142	16	56	3	4	0	2	減少	-	143	
アカムツ		2	25	21	22	23	14	24	15	13	13	減少	-	18	
ユメカサゴ(のどぐろ)		22	29	26	32	111	189	78	30	37	70	横ばい	高位	62	
キチジ(あかじ)	50	21	10	15	31	64	52	13	23	9	4	減少	-	29	
マアナゴ		5	49	34	48	31	35	19	26	20	7	減少	-	30	
マトウダイ		4	27	24	70	34	5	29	17	18	20	増加	-	25	
参考															
トラザメ(ねこざめ)	604	1,616	777	1,119	960	1,603	1,231	1,629	1,027	1,077	385	減少	-	1,164	
テナガダラ(とうじん)		977	1,389	6,559	1,126	907	1,113	2,116	340	1,210	1,937	横ばい	-	1,749	

※: 水準:「茨城県産重要魚種の生態と資源」(令和4年3月更新、水試ホームページ)で報告している資源水準。-は未評価。
※:チゴダラ、アカムツ、ユメカサゴ、マアナゴ、マトウダイ、テナガダラは、H25調査から推定現存量を計算しているため、過去9年平均を掲載。

(参考) 増減傾向(増加・減少・横ばい)の判定方法

増減傾向の判定方法を図1に示しました。年変動率は直近5年間の推定現存量の推移(回帰直線の傾きの大きさ等)から求めます。

アオメエソ(めひかり)を例に用いると、「①年変動率は-2%(±5%以内)」で、直近の推定現存量が「②3年以上連続で増加」のため、増減傾向は「増加」と判定しました(図2)。

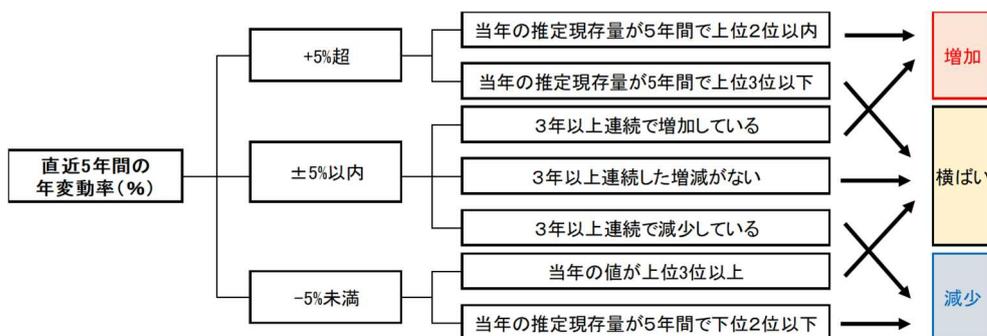


図1. 増減傾向の判定方法

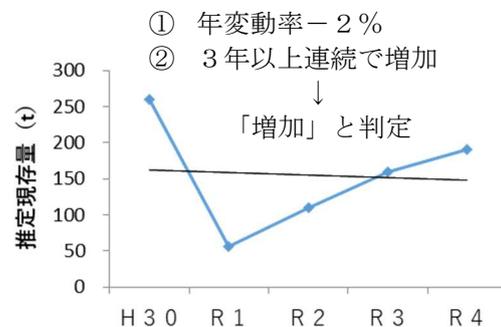


図2. H30～R4のアオメエソ(めひかり)の推定現存量の推移と回帰直線

(水産試験場 定着性資源部)

【次回予告】令和4年10月28日発行の水産の窓は「令和4年10月の海況と今後の予測」を予定しています。

水産の窓

茨城県沖におけるマダラ0歳魚の加入について

水産試験場で夏季に実施した底魚資源調査（以下、夏季調査）において、マダラの0歳魚が採捕されましたので、今年の加入状況についてお知らせします。なお、夏季調査の詳細は水産の窓4-No.16「底魚資源調査（夏季）を実施しました」に掲載しております。

1. マダラの生態

マダラは北部太平洋沿岸に広く分布し、太平洋側では茨城県が南限とされています。主な生息水深は40～550mで季節的な浅深移動を行うことが知られています。本種の産卵は冬季に行われ、宮城県の仙台湾や青森県の八戸沖に産卵場があると考えられています（図1）。

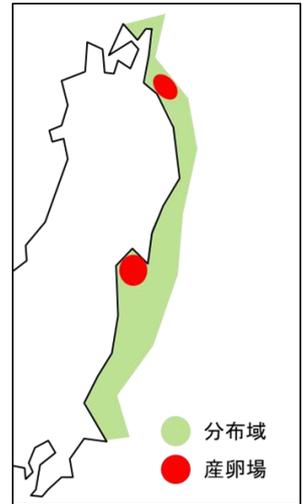


図1. マダラの分布と産卵場

2. 0歳魚の加入状況

今年の夏季調査では、北茨城沖から鹿島沖にかけて全長8～15 cm台のマダラが採捕されました（図2）。本種は1歳で約20 cmに成長するため、採捕された個体は0歳魚であると考えられます。本県海域におけるマダラの推定現存尾数は令和元年以降2万尾未満で推移しておりましたが、今年の現存尾数は約30万尾と推定されました（図3）。10万尾を超える0歳魚の加入は平成30年以降4年ぶりとなります。

水産研究・教育機構から得た情報によると、今年は仙台湾におけるマダラの加入状況が良かったことから、夏季調査で採捕された小型のマダラは、東北由来の群れの一部が、親潮に乗って茨城県沖に加入したものと考えられます。

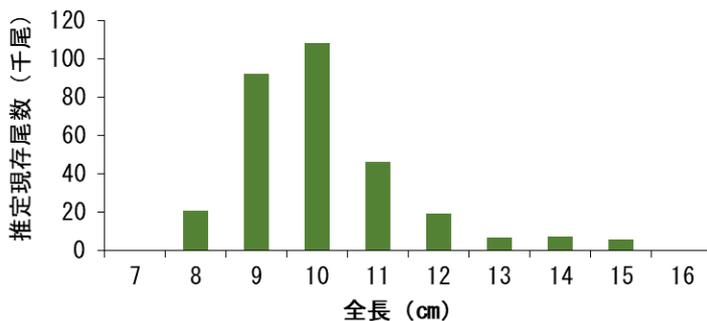


図2. マダラの全長別推定現存尾数（夏季調査）

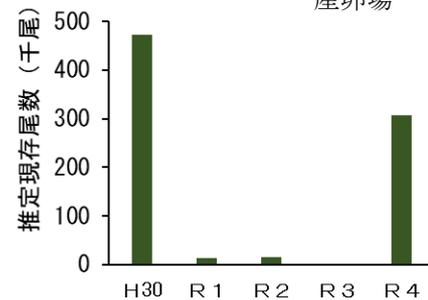


図3. マダラの推定現存尾数推移
 ※R3は採捕なし

3. マダラ（0歳魚）の成長

9月に久慈沖で実施した着底トロール調査でもマダラの0歳魚が採捕されました（図4）。夏季調査時（7、8月）と比較すると、9月の全長組成は12～16 cm台が主体となり、成長が進んでいると考えられます（図5）。水産試験場では今後のマダラの成長や資源動向にも注目していきたいと思っております。

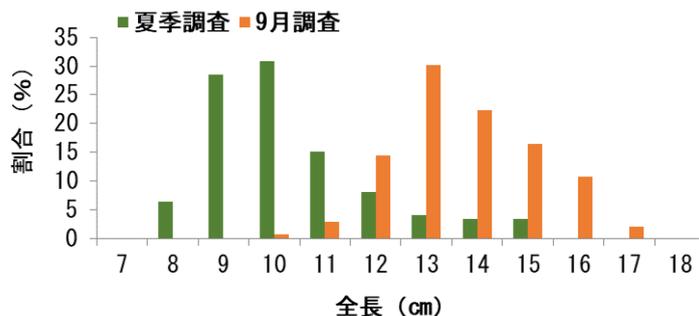


図5. マダラの全長組成（夏季調査と9月調査）



図4. 9月に採捕されたマダラ0歳魚

（水産試験場 定着性資源部）

【次回予告】 令和4年10月28日発行の水産の窓は「令和4年10月の海況と今後の予測」を予定しています。